

# 効率を、追うな。 品質を、追え。

福井県鯖江市。ここにある1軒のめがね工場が、世界を驚かせたのは1983年のこと。

チタン素材のめがねを世界で初めて完成させた。飛行機の機体にも用いられるチタンは、軽くて強い。

めがねに応用できるかは全くの未知数だったが、多くの職人の技と情熱で、実現させた。

その工場こそが、現在のパリミキ・メガネの三城の自社工場だ。

当時の挑戦心と技術は、今も受け継がれ、自動車会社が開発した、弾力性と強度を備えた新素材で

めがねを開発。ネジ1本にも、0.01mm単位の細かい寸法管理を徹底する。

そして、めがねの美しさを生む「磨き」という最後の工程は、

職人歴40年、50年といった者たちが、一手に担う。

最新のテクノロジーと熟練の技を融合させ、200以上もの工程を丁寧に積み上げ、

1本のめがねができあがる。

働き方改革が叫ばれ、効率がますます重要視される時代。

確かに、この工程を少なくすれば、時間もコストも下げられる。

けれど、それではわたしたちが追求する、めがねづくりの基準は満たせない。

かけた瞬間に、違いがわかる、心地よさ。

そして、その感覚が、数年後も変わらず続いていく。

それが、わたしたちの考えるめがねのあり方。

ひとが直接身に付け、毎日とともに過ごす大きな存在であるめがね。

だからこそ、一つ一つの工程に、すべての技術とこだわりを注ぎ込む。

時代に逆行し、ちょっと不器用かもしれない、そんな日本気質なめがねづくりに誇りを持ちながら、

どこまでも品質を追いかけたい。

それが、88年目を迎えた、「パリミキ・メガネの三城」の変わらない想いです。



Made in  
JAPAN  
project

日本のクラフトマンスピリットが、活きている。

